

TOP MUSEUM

東京都写真美術館ニュース
eyes 117

今森光彦 につぼんの里山

いわいとしお × 東京都写真美術館
光と動きの100かいだてのいえ
— 19世紀の映像装置とメディアアートをつなぐ

TOPコレクション 見ることの重奏

eyes

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM
NEWS MAGAZINE / 2024 Vol.117

今森光彦 にっぽんの 里山

Imamori Mitsuhiko
Satoyama: Harmony with Nature and
Resilience in Japan

このたび東京都写真美術館では、自然写真家・今森光彦の「にっぽんの里山」を開催します。世界中を旅して、そこに生きる生物とそれらを取り巻く自然を撮影してきた今森光彦は、ライフワークとして日本の里山の撮影も続けてきました。里山シリーズの中から最新作を含む約190点を紹介する本展の開催にあたり、里山を撮影するきっかけや思いについて、寄稿いただきました。

繋がりあう風景

今森光彦

日本中の里山を旅しながら訪ねてみたい、そう思い立ったのは、2007年の秋だったと記憶する。実際に撮影を開始したのは、しばらくの準備期間を経た2008年3月。最初に目指したのは、アイヌ文化が色濃く残る北海道平取町^{びととりまち}だった。

長年取り組んできた里山シリーズは、滋賀県の琵琶湖周辺を継続的に取材するもので、定点的なものの見方である。人と自然の関わりを洞察してゆくには、何年もかけて同じ場所を見据えないと理解でき

ない。ただ、フィールドを定めてしまうと、被写体は動かないのでその代わり自らが立ち位置を変えることになる。今まで自分の思考に変化をもたせるために雑木林を再生したり、庭をつくったり色々なことをしてきたが、最終的には、とうとうカメラを持たずに野良仕事に没頭することになってしまった。

そんな執着的な里山シリーズを横目に見ながら並行して始めたのが“にっぽんの里山”だった。このプロジェクトは、一箇所を深く掘り下げるアプローチではなく、広く浅くできるだけたくさんの里山に出会うことを目的とした。

“琵琶湖の里山”が縦軸であるとしたら、“にっぽん

1954年、滋賀県大津市生まれ。独学で写真を学び、80年からフリーランスの写真家として活躍。以後、琵琶湖を望む田園にアトリエを構え、自然と人との関わりを「里山」という概念で追う一方で、世界各国を訪ね、熱帯雨林から砂漠まで広く取材。第48回毎日出版文化賞、第20回木村伊兵衛写真賞、第42回産経児童出版文化賞大賞など受賞多数。写真集に『里山物語』（新潮社）、『湖辺 みずべ』（世界文化社）、『今森光彦 昆虫記』、『今森光彦 フィールドノート 里山』（ともに福音館書店）など著書多数。近年は環境農家、ガーデナー、里山環境プロデューサーとしても活動。

今森光彦（いまもり・みつひこ）



ポートレート撮影：今森元希



《カモシカとアジサイ》青森県深浦町 2008年

の里山”は、横軸。この行為によって私の網膜に里山がより立体的な像を結ぶのではないかという期待感があった。

私が使っている里山という言葉の意味は、曖昧な空間概念なので、見ず知らずの土地では瞬間的に里山を特定できるものではない。

このとき、ひとつの目安になったのは文化庁が定めた国の重要文化的景観だった。2004年に公布されたこの基準は、国定公園、景勝地、世界遺産などさまざまな特定地域から外れていて、今までどのカテゴリーにも属さなかったエリアが対象となった。幸運なことにその選定委員に最初私も参加させていただいた経緯があって、日本にまだまだ貴重な環境があることを知る機会を得た。

偶然にも重要文化的景観の第一号となったのは、地元である滋賀県近江八幡市の「近江八幡の水郷」だったのは奇遇だ。これらの数々のノミネートエリアは、私にとってはそのまま“にっぽんの里山セレクション”であるように思われた。

私が最初の撮影地に平取町を選んだのは、2007

年に選定された「アイヌの伝統と近代的開拓の歴史をもつ沙流川流域」が候補エリアにあがっていたからにはほかならない。

とにかく、重要文化的景観という概念は、これから始まる掴みどころのない大航海にとって大切な羅針盤になってくれたことは確かだ。

だが、あちこち旅を重ねるうちに、そんなことはどうでもよくなってしまった。里山というのは、他者に認めてもらうためにあるのではなく、そこに住んでいる人や生物たちのためにあることを悟ったからだ。

それがわかると、体が急に楽になった。里山を訪ねる旅は、楽しくなくてはならない。そう言い聞かせて、一切の先入観を捨て去り、自分の目で納得してシャッターを切ることにした。

日本全国200カ所をこえる里山を訪ねてきたが、改めて考えてみると、日本列島は、個人的な里山の風景が繋がりがあってできているのだな、とつくづく感じる。

美しいにっぽんの里山が、点ではなく途切れることのない面となって広がってゆくことを願わずにはいられない。

表紙図版)《カタクリにやって来たギフチョウ》山形県鶴岡市 2010年

今森光彦 につぼんの里山

Imamori Mitsuhiro Satoyama: Harmony with Nature and Resilience in Japan

2F | 2024.6.20|木| - 9.29|日|



《夏の柴胡畑》高知県越知町 2016年



《ヒガンバナにやって来たモンキアゲハ》
広島県安芸高田市 2020年

世界の熱帯雨林、砂漠から、国内の自然環境まで、自然と人との関わりをテーマに美しい映像と親しみやすい文章で伝えつづける今森光彦。幼いころから昆虫の生態と美しさに魅力された今森は、世界中の昆虫を求めて精力的に取材活動をつづけ、既成の生態写真にとられない独特な自然観に基づく作品は、内外で高い評価を得ています。また、故郷である琵琶湖周辺を中心とした「里山」と呼ばれる空間を見つめつづけ、自然と人との絶妙なバランスで生み出される里山を映像化してきました。本展覧会は今森が出会った日本全国200ヵ所以上の里山の中から、厳選した作品を紹介するシリーズ最新作です。

里山をめぐる今森の旅は、自然と人が調和する空間を鮮やかに浮かび上がらせ、美しく多様性に富んだこの国の自然に気づかせてくれることでしょう。今森光彦のライフワーク、里山シリーズの全貌が解き明かされる「につぼんの里山」にご期待ください。

【観覧料】 一般700円 ほか 各種割引あり
※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ウェブサイトをご覧ください。

【主催】 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 【協賛】
(株)ニコン / (株)ニコンイメージングジャパン / 東京都写真美術館支援会員



《朝霧の棚田》新潟県十日町市 2010年



《七色に輝く紅葉》岩手県八幡平市 2012年



《豊漁を祈る》三重県紀北町 2012年



《真冬の渓流》青森県十和田市 2013年

※表紙、P1-4の図版はすべて作家蔵

関連イベント

▶講演会「里山から生命の宇宙を語る」
【日時】 8.24(土) 14:00-15:30
【講師】 福岡伸一(生物学者・作家)、今森光彦(出品作家)

▶今森光彦 上映とトーク
【日時】 8.25(日) 14:00-15:30
【出演】 小野泰洋(元NHKエンタープライズ
エグゼクティブ・プロデューサー)、今森光彦(出品作家)

【会場】 東京都写真美術館 1階ホール
【参加費】 無料 【定員】 190名(整理番号順入場/自由席)
※当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布します。

▶アーティスト・ギャラリートーク
出品作家の今森光彦による展示解説
【日時】 7.6(土)、7.13(土) 各回14:00-

▶担当学芸員によるギャラリートーク(*手話通訳付き)
【日時】 7.5(金)、8.2(金)*、9.6(金)* 各回14:00-
※ギャラリートークは当日有効の本展チケットまたは無料対象の方は証明書等のご提示が必要です。

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

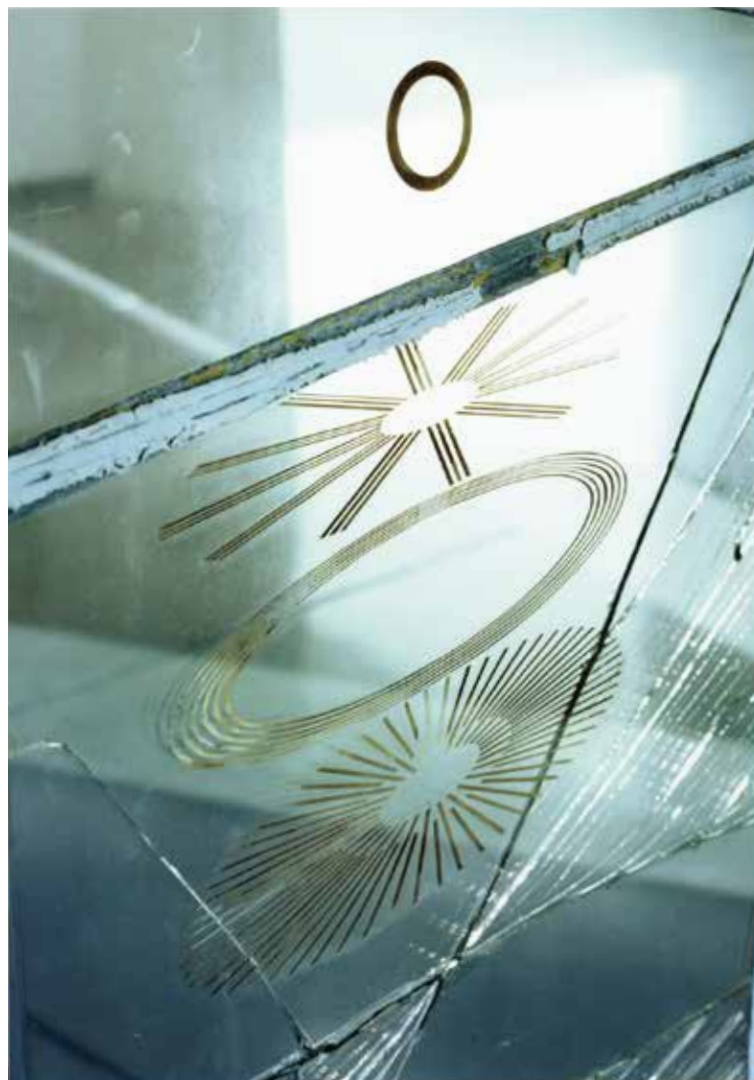


TOPコレクション 見ることの重奏

TOP Collection: The Resonance of Seeing

3F 2024.7.18|木| - 10.6|日|

TOPコレクション 見ることの重奏
TOP Collection: The Resonance of Seeing



奈良原 一高〈デュシャン/大ガラス〉より 1973年 東京都写真美術館蔵 ©Narahara Ikko Archives

【観覧料】 一般700円 ほか 各種割引あり
※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ウェブサイトをご覧ください。

【主催】 東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

出品作家

ベレニス・アボット／ウジェーヌ・アジェ／アンナ・アトキンス／
チェン・ウェイ／スコット・ハイド／アンドレ・ケルテス／ウィリアム・
クライン／奈良原一高／マン・レイ／杉浦邦恵／モーリス・
タバル／寺田真由美／マイナー・ホワイト／山崎博

東京都写真美術館では約37,000点を超える収蔵作品のなかから、テーマに沿って選び抜かれた名品を定期的に紹介しています。本展覧会では、当館の所蔵する写真作品を中心に、「見ることの重奏」をテーマとして、見るということを開き直す試みを行います。

ひとつの作品に内在する、作者や批評家、鑑賞者などのさまざまなまなざし。たとえば、写真家は制作のプロセスにおいて、ある対象を独自の方法で見つめ、それをフレーム化します。また批評家は、自身の作品の見方を言語化することで、作品を評価し、価値づけます。そして鑑賞者はそこに写されている事象と自身の個人的な経験や記憶を結びつけ、その関係性のなかで作品を見ることができます。

このように、イメージの作り手、語り手、受け手など、その立ち位置によって、写真を見るという行為は多様なものとなります。そして見る経験はイメージの表面上には見えない、歴史的な視点と豊かな想像力、自身の思考が重なり合い、それらを共鳴させる行為とも言えるのではないのでしょうか。

本展では、これまで語られてきた作品をめぐる言葉とともに、時代も地域も異なるコレクションが一堂に展示されます。出品作品を通して、写真を見るということについて思考をめぐらせる場となれば幸いです。



1

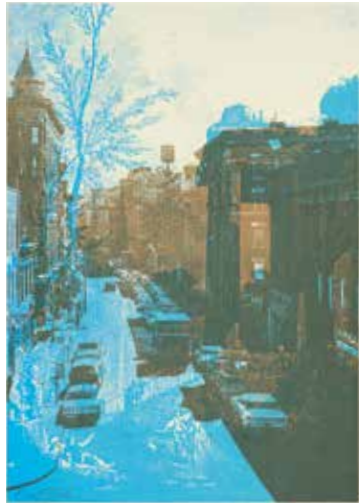
1) アンドレ・ケルテス《水面下の泳ぐひと、エステルゴム、ハンガリー 1917年》1917年 2) ウジェーヌ・アジェ《英国ベネディクト会の旧修道院、サン・ジャック通り269番地》1905年 3) ベレニス・アボット《変わりゆくニューヨーク》より 1930年



2



3



関連イベント

▶アーティスト・トーク

チェン・ウェイ(出品作家) | 寺田真由美(出品作家)
[日時] 8.1(木) 18:30-20:00 | [日時] 8.8(木) 19:00-20:00
[会場] 東京都写真美術館1階ホール [参加費] 無料
[定員] 190名(整理番号順入場/自由席)

▶ゲストによる講演会

「アジェのバリ」はいかに語られたか — 米・仏写真批評の往還
[日時] 8.29(木) 18:00-19:30
[講師] 今橋映子(東京大学大学院教授)
[会場] 東京都写真美術館1階スタジオ [参加費] 無料
[定員] 50名(整理番号順入場/自由席)

すべて当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布します。

▶担当学芸員によるギャラリートーク(*手話通訳付き)
7.19(金)、8.16(金)*、9.20(金)* 各回14:00-

※当日有効の本展チケットまたは無料対象の方は証明書等のご提示が必要です。

▶夏休みワークシート(企画・編集:株式会社Gakken)

[対象] 小学生低学年~中学生年、小学生高学年~中学生
[配布場所] 3階展示室前受付カウンター

- 1) マイナー・ホワイト《窓枠の白屋夢、ロチェスター、ニューヨーク州》1958年 Reproduced with permission of the Minor White Archive, Princeton University Art Museum. © Trustees of Princeton University
- 2) チェン・ウェイ《New Station - if on a winter's night》2020年 © Chen Wei, courtesy of Ota Fine Arts
- 3) マン・レイ《アングルのヴァイオリン》1924年 © MAN RAY 2015 TRUST / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 X0269
- 4) スコット・ハイド《無題》1970年 © Scott Hyde Estate, courtesy Joseph Bellows Gallery

※P5-7の図版はすべて東京都写真美術館蔵

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



いわいとしお × 東京都写真美術館



光と動きの100かいだてのいえ

— 19世紀の映像装置とメディアアートをつなぐ

Iwai Toshio × Tokyo Photographic Art Museum presents
The Light and Movement House with 100 Stories
— Connecting Visual Devices in the 19th Century and Media Art

B1F 2024.7.30|火| - 11.3|日・祝|

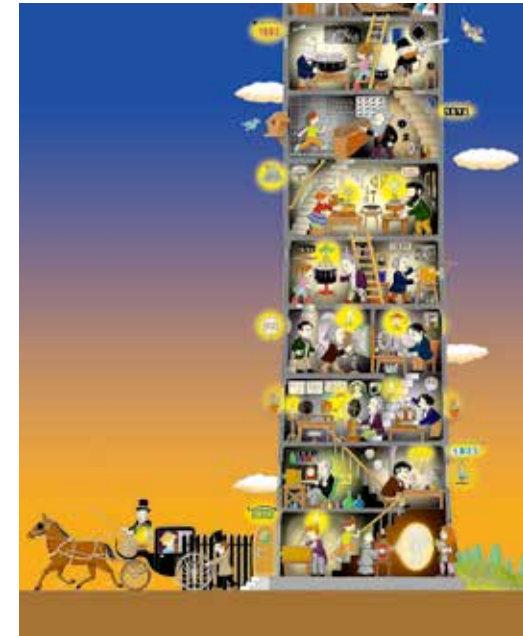
人気絵本『100かいだてのいえ』の作者いわいとしおは、日本を代表するメディアアーティスト岩井俊雄でもあります。岩井は、幼少からアニメーションに強い興味を持ち、パラパラマンガや驚き盤を現代のテクノロジーによって進化させた作品〈時間層〉シリーズによって、独自のメディアアートを確立しました。この展覧会では、岩井のメディアアートと、その原点となる19世紀の映像装置をつなぎ、光と動きが生み出す視覚の面白さと、それらを作り上げた科学者や芸術家たちの飽くなき探究心を解き明かします。



《映像装置としてのピアノ》1995年 作家蔵 撮影:齋藤さだむ

[観覧料] 一般700円 ほか 各種割引あり ※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ウェブサイトをご覧ください。

[主催] 東京都/公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/日本経済新聞社 [協力] 株式会社偕成社



©Iwai Toshio



岩井俊雄(いわいとしお)
メディアアーティスト・絵本作家

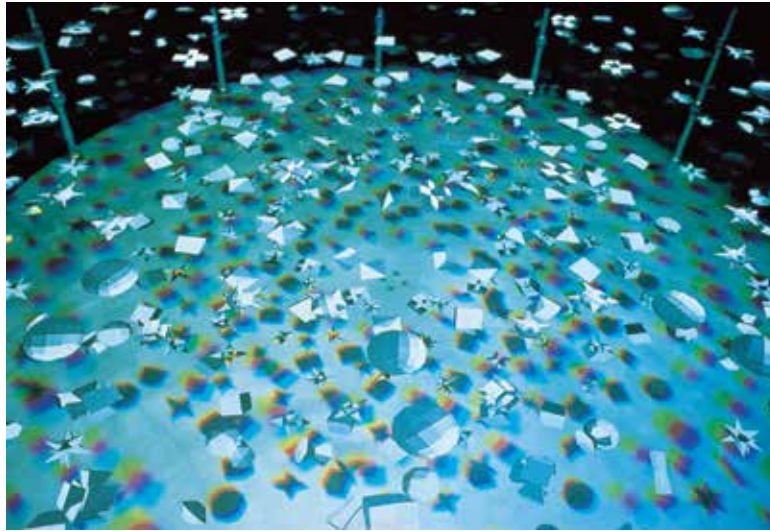
1962年愛知県生まれ。筑波大学大学院芸術研究科修了。1985年《時間層II》で第17回現代日本美術展大賞を最年少受賞。その後テレビ番組やゲームソフト制作、電子楽器開発など多岐にわたる活動を展開。絵本の代表作に〈100かいだてのいえ〉シリーズがある。



1



2



3

- 1)《時間層Ⅲ》1989年 作家蔵 2)《時間層Ⅱ》1985年
 - 3)《時間層Ⅳ》1990年 作家蔵
 - 4)プラクシノスコープ・テアトル
 - 5)《かがみの100かいだてのいえ》2022年 作家蔵
撮影:齋藤さだむ
 - 6)《光の驚き盤》2003年 7)ゾートローブ
 - 8)ゾーマトローブ 9)フェナキスティスコープ
- ※表記のないものは東京都写真美術館蔵

EVENT

関連イベント

▶講演「光と動きのメディア考古学」

[日時] 8.2(金)18:30-20:00

[講師] エルキ・フータモ(カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授)

▶シンポジウム「メディアの過去と未来をつなぐ」

[日時] 9.7(土)13:00-16:00

[登壇者] 岩井俊雄(出品作家)、明貫紘子(メディアアート研究者)、橋本典久(プリミティブメディアアーティスト)、藤村里美(東京都写真美術館学芸員)

[会場] 東京都写真美術館1階ホール

[参加費] 無料 [定員] 190名(整理番号順入場/自由席)

※当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布します。

▶ワークショップ「かがみの100かいだてのいえをつくろう!」(親子向け、事前申込制)

[日時] 8.17(土)13:00-16:00

[講師] 岩井俊雄(出品作家)

[対象] 小学3~6年生と保護者

[参加費] 2,000円(税込) [定員] 12組

▶ワークショップ「驚き盤とプラクシノスコープをつくろう!」(こども向け、事前申込制)

[日時] 8.18(日)13:00-16:00

[講師] 橋本典久(プリミティブメディアアーティスト)

[対象] 小学5年生~中学生

[参加費] 2,000円(税込) [定員] 20名

※事前申込制/申込方法はHPをご確認ください。

▶担当学芸員によるギャラリートーク

8.9(金)、9.13(金)*、10.11(金)*

各回14:00~(*手話通訳付き)

※当日有効の本展チケットまたは無料対象の方は証明書等のご提示が必要です。



4



8



9



いわいとしお × 東京都写真美術館 光と動きの100かいだてのいえ — 19世紀の映像装置とメディアアートをつなぐ

Iwai Toshio x Tokyo Photographic Art Museum presents
The Light and Movement House with 100 Stories – Connecting Visual Devices in the 19th Century and Media Art



5



6



7

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



WONDER Mt. FUJI

富士山 ～自然の驚異と感動を未来へ繋ぐ～

WONDER Mt. FUJI

Connecting the Wonders and Inspiration of Nature with the Future Generations of Mankind

B1F 2024.6.1|土| - 7.21|日|

霊峰、富士。天に向かって聳え立つその姿は“自然の驚異と感動=WONDER”を私たちに示しています。170年前、初めて富士山が写真に撮られて以来、この特別な山は、“神聖なる存在”として、また、“あるべき美の姿”として写され続けてきました。人類が今、地球から宇宙へ、現実世界から仮想世界へと、その一線を超えようとする時、富士山は現実世界の錨として、世界中の人々に大切な何かを問いかけているように感じます。本展では、18人の卓越した写真家たちが、自身の目を通して富士山のメッセージを紡ぎだします。



©Yu YAMAUCHI

〈観覧料〉一般1,200円ほか 各種割引あり

〈主催〉NPO 東京画

〈共催〉公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

〈お問い合わせ〉

WONDER Mt. Fuji プロジェクト事務局 KLEE INC PARIS TOKYO

TEL:03-5410-1277

※事業は諸般の事情により変更することがございます。

最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



1F HALL / 上映

最新の
上映スケジュールは
こちら▶



1F 丸木位里・丸木俊 沖縄戦の図 全14部

《原爆の図》《南京大虐殺の図》《アウシュビッツの図》と40年にわたり、戦後一貫して戦争の地獄絵図を描いてきた丸木位里(まるき いり)・丸木俊(とし)夫妻。1982～1987年、夫妻は沖縄に通い続け、地上戦の「現場」に立ちながら、晩年の集大成として沖縄戦を連作14部に描きました。本ドキュメンタリーは、《沖縄戦の図》全14部をすべて紹介する初めての試みであり、地上戦を生き延びた沖縄の人びとの切実な「命どう宝(命こそ宝)」に共感共苦した、丸木夫妻の「人間といのち」への深い鎮魂と洞察の軌跡をたどる物語です。



〈上映期間〉2024.6.18(火)-6.30(日)、8.6(火)-8.23(金)

〈休映日〉2024.6.24(月)、8.13(火)、8.19(月)

〈料金〉一般1,800円、学生(大学・専門学校・高校)1,500円、中学生以下(3歳以上)・シニア(60歳以上)・障害者手帳をお持ちの方(介護者2名まで)1,200円

〈お問い合わせ〉株式会社海燕社

Mail: mail@kaiensha.jp

〈公式サイト〉<https://sakima.jp/movie/>

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

PASSPORT

東京都写真美術館 年間パスポート

「TOPMUSEUM PASSPORT 2024」販売中

TOPMUSEUM
PASSPORT 2024

展覧会を無料または割引でご鑑賞いただける年間パスポートを販売しています。ご本人様に加えて、同伴の方1名様もご利用いただける特典もあります。お早目の購入がおトクですのでぜひこの機会にお求めください。

販売期間	2024年9月29日まで(予定)
販売価格	3,300円(税込)
販売場所	当館1階 総合受付 ※販売は開館日の閉館時間30分前までとなります。
有効期間	購入日～2025年3月31日 ※2025年3月31日は当館は休館日ですのでご注意ください。

詳細はこちら▶



サマーナイトミュージアム2024



都立の文化施設では、今年も「サマーナイトミュージアム」を開催します。東京都写真美術館では2024年7月18日-8月30日の木・金曜日の開館時間を21時まで延長し、夜間限定で展覧会観覧料が割引になります。夏の夜を美術館でゆっくりお過ごしください。

特典

17:00以降の入館について、**学生・中高生は無料、一般・65歳以上は団体料金**となります。団体料金は当館ウェブサイトでご確認ください。学生証・年齢が確認できるものをご提示ください。

対象となる展覧会

- 3階 「TOPコレクション 見ることの重奏」展
- 2階 「今森光彦 にっぽんの里山」展
- 地下1階 「WONDER Mt.FUJI」展
- 地下1階 「いわいとしお×東京都写真美術館 光と動きの100かいたでのいえ」展

〔日程〕2024.7.18(木)-8.30(金)の木・金曜日 【開館時間】21:00まで(ご入館は20:30まで)

カフェ「フロムトップ」は20:00まで(ラストオーダー 19:30) / ミュージアム・ショップ「NADiff BAITEN」は21:00まで / 図書室は18:00まで

支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただいています。

《特別賛助会員》

キヤノン(株)
全日本空輸(株)
(株)ニコン

《賛助会員》
キヤノンマーケティングジャパン(株)
(株)資生堂
大日本印刷(株)
東急建設(株)
TOPPANホールディングス(株)
富士フイルム(株)

《特別支援会員》

アサヒグループホールディングス(株)
サッポロ不動産開発(株)
サッポロホールディングス(株)
ビクテ・ジャパン(株)
リコーイメージング(株)

《支援会員》

(株)I&S BBDO
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
(株)アイネスト
アイング(株)
アオイネオン(株)
(株)アクト・テクニカルサポート
(株)浅沼商会
(株)朝日工業社
朝日新聞社
(株)朝日新聞出版
朝日生命保険(相)
(有)アスペン/POLARIS
(株)アフロ
(株)アマナ
(株)岩波書店
(株)潮出版社
(株)栄光社
(株)エージピー
(一財)AVCC・霞が関ナレッジスクエア(KK²)
SMBC日興証券(株)
SB C&S(株)
(株)NHKエデュケーション
(株)NHKエンタープライズ
(株)NHK出版
(株)NHKテクノロジーズ
ENEOSホールディングス(株)

エルメス財団
OMデジタルソリューションズ(株)
カールツァイス(株)
花王(株)
鹿島建設(株)
(株)KADOKAWA
カトーレック(株)
神奈川新聞社
カメラショップ(株)
カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)
(株)キクチ科学研究所
(株)キタムラ
キックマン(株)
(株)紀伊國屋書店
ギャラリー小柳
共同印刷(株)
(一社)共同通信社
空港施設(株)
(株)久米設計
グローリー(株)
(株)ケー・アンド・エル
ゲッティイメージズジャパン(株)
興亜硝子(株)
(株)弘亜社
(株)公栄社
(株)廣済堂
(株)講談社
(株)光文社
(株)国書刊行会
(株)コスモスインターナショナル
小山登美夫ギャラリー(株)
佐川印刷(株)
三愛オプリー(株)
三機工業(株)
産経新聞社
サントリーホールディングス(株)
(株)ジェイアール東日本企画
JSR(株)
(株)JTブ
(株)シグマ
(株)実業之日本社
信濃毎日新聞社
清水建設(株)
(株)写真弘社
写真の学校/東京写真学園
シャネル(同)
(株)集英社
シュッピン(株)
(株)小学館

松竹(株)
信越化学工業(株)
(株)新潮社
(株)晋遊舎
(株)スタジオエムジー
(株)スタジオジブリ
(株)SUBARU
住友生命保険(相)
(株)住友倉庫
(株)生活の友社
セイコーグループ(株)
双日(株)
ソニーグループ(株)
損害保険ジャパン(株)
第一生命保険(株)
(株)紀伊國屋銀行
大和証券(株)
(有)タカ・イシイギャラリー
(株)高島屋
(株)竹中工務店
(株)タニタ
(株)タムロン
(株)丹青社
(株)中央公論新社
中外製薬(株)
(株)TBSテレビ
(株)テレビ朝日
(株)テレビ東京
(株)電通
東亜建設工業(株)
東映(株)
(株)東京印書館
東京工科大学/日本工学院
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
(株)東京スタジオ
東京造形大学
東京総合写真専門学校
(株)東京ダイケンビルサービス
東京建物(株)
東京地下鉄(株)
東京テアトル(株)
東京都競馬(株)
(株)東京ニュース通信社
専門学校東京ビジュアル
アーツ・アカデミー
(株)東京美術倶楽部
東京メトロポリタンテレビジョン(株)
(株)東芝
東宝(株)

(株)東北新社
(株)東洋経済新報社
(株)徳間書店
戸田建設(株)
(株)トロンマネージメント
(株)ニコンイメージングジャパン
日油(株)
日活(株)
日機装(株)
日光ケミカルズ(株)
日本空港ビルデング(株)
日本経済新聞社
(株)日本広告社
(公社)日本広告写真家協会
日本写真印刷コミュニケーショズ(株)
(公社)日本写真家協会
(公社)日本写真協会
日本写真芸術専門学校
日本生命保険(相)
(株)タニタ
(株)日本デザインセンター
(株)ニッポン放送
日本レコードマネージメント(株)
日本ロレックス(株)
野村證券(株)
(株)博報堂
(株)博報堂DYメディアパートナーズ
(株)博報堂プロダクツ
(株)ハーツ
パナソニック
ホールディングス(株)
(株)パラゴン
(株)バンダイナムコフィルムワークス
びあ(株)
北海道 写真の町東川町
(株)美術出版社
(株)ビックカメラ
(株)ピラミッドフィルム
(株)ファーストリテイリング
(株)フェドラ
(株)富士通パーソナルズ
(株)フジテレビジョン
(株)フジヤカメラ店
芙蓉総合リース(株)
(株)フレームマン
プロフォト(株)
(株)文化工房
(株)文藝春秋

北海道新聞社
(株)ホテルオークラ東京
本田技研工業(株)
毎日新聞社
丸善雄松堂(株)
マルミ光機(株)
(株)マンダム
(株)みずほ銀行
三井住友海上火災保険(株)
三井倉庫ホールディングス(株)
三井不動産(株)
三菱製紙(株)
三菱電機(株)
三菱UFJ信託銀行(株)
明治安田生命保険(相)
ライオン(株)
ライカカメラジャパン(株)
(株)リビタ
(株)良品計画
(株)ロボット
(株)ワコウ・ワークス・オブ・アート
(株)ワコール

支援会員の
詳細は
こちら▼



2F SHOP
ミュージアム・
ショップ

NADIFT
BAITEN

展示会の開催に合わせて、品揃えがガラリと変わるミュージアム・ショップ。写真集や関連書籍はもちろん、グッズ類も豊富に取り揃えております。日本発のアクリルプロダクトブランドである「toumei」の美しいコースターやお皿は、初夏の暑さに涼しげな空気をもたらしてくれます。

toumei コースター 各種 880円(税込)~
toumei 箔皿 各種 880円(税込)~



詳細
ページは
こちら▼



[営業時間] 10:00 - 18:00
(木・金は20:00まで。ただし7.18(木) - 8.30(金)の木・金は21:00まで)
[TEL] 03-6447-7684
[定休日] 美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。

1F CAFE
カフェ

フロムトップ

台湾で人気の屋台飯、ルーロー飯をワンプレートでご用意しています。カラーゲンたっぷりの皮付きの豚肉にこんにやくを加えた食感楽しいルーロー飯に色鮮やかな野菜を添えました。コーヒーまたは日本茶付き1,500円(税込)。



詳細
ページは
こちら▼



[営業時間] 10:00 - 18:00(木・金は20:00まで)
[TEL] 070-8591-3730
[定休日] 美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人
(一財)=一般財団法人

SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、
こちら▶



	3F	2F	B1F	1F
2024 6	TOPコレクション 時間旅行 (収) 4.4(木) - 7.7(日)	今森光彦 にっぽんの里山 (企) 6.20(木) - 9.29(日)	WONDER Mt. FUJI (誘) 6.1(土) - 7.21(日)	丸木位里・丸木俊 沖繩戦の図 全14部 2024.6.18(火) - 6.30(日)、 8.6(火) - 8.23(金)
7	TOPコレクション 見ることの重奏 (収) 7.18(木) - 10.6(日)		いwaitとしお×東京都写真美術館 光と動きの 100かいたでのいえ —19世紀の映像装置と メディアアートをつなぐ (収) 7.30(火) - 11.3(日・祝)	
8				
9				
10	日本の新進作家 vol.21 (企) 10.17(木) - 2025.1.19(日)	アレック・ソス (企) 10.10(木) - 2025.1.19(日)	「巨匠が撮った高峰秀子」 写真展 (誘) 11.9(土) - 12.8(日)	
11				
12				
2025 1				
2	恵比寿映像祭 2025 1.31(金) - 2.16(日)			
3	3階展示室のみ 3.23(日)まで	鷹野隆大 (収) 2.27(木) - 6.8(日)	APAアワード2025 (誘) 2.22(土) - 3.9(日) ロバート・キャパ (誘) 3.15(土) - 5.11(日)	東京都内の美術館・ 博物館等をお得に見られる 「ぐるっとバス」 ▼詳細はこちら▼

(企) 企画展 (収) 収蔵展 (誘) 誘致展



手話通訳付きギャラリートークを開催しています

展覧会担当学芸員が
手話通訳者をまじえ
て、展覧会のテーマや
展示作品など、見ど
ころをわかりやすく解
説します。

今森光彦 にっぽんの里山	8.2(金)、9.6(金) いずれも14:00 -
TOPコレクション 見ることの重奏	8.16(金)、9.20(金) いずれも14:00 -
いwaitとしお×東京都写真美術館 光と動きの100かいたでのいえ	9.13(金)と10.11(金) いずれも14:00 -

どなたでもご参加できます。
※当日有効の展覧会チケットが必要です。(展覧会無料対象の方は各種証明書をご提示ください。)

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ
日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館
には専用駐車場はありません。恵比寿ガ
ーデンプレイスの駐車場をご利用ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 www.topmuseum.jp

開館時間 10:00-18:00(木・金は20:00まで、ただし7.18(木)-8.30(金)の木・金は21:00まで) ※入館は閉館30分前まで。
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始

東京都写真美術館ニュース「アイズ2024」117号 □発行日:2024年6月20日 □企画・編集:東京都写真美術館管理課企画広報係 □印刷・製本:株式会社公栄社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2024 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、消費税込みの価格です。事業は諸般の事情により変更することがございます。最新の情報はウェブサイトをご覧ください。